

事業名	アワビ類放流効果調査
予算区分	水産研究費（県単）
事業実施期間	R6
担当者	（海洋生産技術担当）石川貴志、小倉季人
共同研究機関等	

<目的>

海洋環境が変化する中、アワビ漁獲量は減少傾向にある。漁業者は、禁漁区の設定と種苗放流による積極的な資源回復に努めているが、アワビは成長が遅く、効果発現に年数を要する。また、本県におけるアワビ類の放流効果調査については、平成14年以降行われていない。

海水の高水温化等の影響もあり、従来とは環境が異なっているため、現在の環境において、放流効果があるのか調査する必要がある。そこで、阿部漁業協同組合と由岐漁業協同組合の協力を得て、漁獲物の中に放流貝がどれだけ混獲されているかを調査した。

<方法>

いずれも漁獲物の全てではなく、ランダムサンプリングを行い、調査した。

クロアワビについては、阿部漁協において、令和6年7月8日に61個体、8月8日に119個体、9月27日に63個体、計243個体、由岐漁協において、6月2日100個体、6月26日に100個体、8月22日に133個体の計333個体の殻長、重量の計測、グリーンマークの有無を調べた。

トコブシについては、由岐漁協において6月26日に100個体の殻長、重量の計測、グリーンマークの有無を調べた。

<結果>

1. 放流貝の混獲調査

結果は表1～3のとおり。

表1. クロアワビ放流貝混獲調査・阿部

阿部	調査数	放流貝	混獲率
7月8日	61	10	16.4%
8月8日	119	34	28.6%
9月27日	63	8	12.7%
total	243	52	21.4%

表2. クロアワビ放流貝混獲調査・由岐

由岐	調査数	放流貝	混獲率
6月2日	100	41	41.0%
6月26日	100	47	47.0%
8月22日	133	67	50.4%
total	333	155	46.5%

表3. トコブシ放流貝混獲調査・由岐

由岐	調査数	放流貝	混獲率
6月26日	100	13	13.0%

<今後の課題>

引き続き他漁協も含めたデータの蓄積が必要。

<次年度の計画>

調査回数、調査地点を増やして実施。

<結果の発表・活用状況等>

調査結果を用いて、種苗放流活動のさらなる推進に取り組む。